

お詫びと訂正

『2022年度 昭和薬科大学 薬学部』（初版）において解答・解答のプロセス（平成30年度化学C方式）に訂正がございます。深くお詫び申し上げますとともに、下記のとおり、訂正させていただきます。

●訂正内容：平成30年度 化学C方式（31p）（32p）

○問題6 問4（2）

[解答]（31p）

誤 B. フェニルアラニン → 正 B. システイン

[解答のプロセス]（以下の通り訂正）（32p）

(2) Xの水溶液はPbSを生成したが、Zの水溶液ではPbSを生成しなかったことから、トリペプチドTにSを含むシステインHSCH₂CH(NH₂)COOHが存在していることがわかる。

等電点ではアミノ酸の正電荷と負電荷が同量になっていて電気泳動をしない。等電点より小さいpHの溶液中ではアミノ酸は陽イオンになっていて陰極に向かって移動し、等電点より大きいpHの溶液中では陰イオンになっていて陽極に向かって移動する。

題意より、pH 8.0で陽極に向かって移動するAとBの等電点は8.0より小さく、陰極に向かって移動するCの等電点は8.0より大きい。またpH 4.2で陽極に向かって移動するAの等電点は4.2より小さく、陰極に向かって移動するBとCの等電点は4.2より大きい。よってAは等電点3.2 H⁺OCCH₂CH₂CH(NH₂)COOH グルタミン酸、Bは等電点5.1のHS-CH₂CH(NH₂)COOHのシステイン、Cは等電点9.7のH₂N(CH₂)₄CH(NH₂)COOH リシンである。